

義名山の森

西に位置する明眼の森とともに、義名山の森は、伐採や開墾によってその範囲が縮小する以前、かつて島のこの一帯を覆っていた森林の貴重な名残です。義名山はその宗教的な重要性から人間の干渉を免れ、現在この森の約 14 ヘクタールは国立公園指定区域の一部となっています。この亜熱帯雨林は、粗い琉球石灰岩を覆う表土に繁っており、アマミアラカシというアラカシ (*Quercus glauca*) の一種がそびえ立つ林冠の下には数多くの野生動物が生息しています。

ハイキングコース

この森の自然遊歩道のハイキングは、「締め殺しイチジク (strangler figs)」としても知られるガジュマルの大木など、原生林の希少な生態系を体験する機会です。この森は、石灰岩層を通じて流れる湧水の水脈に支えられており、この水流が遊歩道沿いの地表に流れ出している箇所は、カエルや昆虫、その他の生物のすみかとなっています。草が生い茂り、ほとんど識別できなくなっている部分もある塹壕は、第二次世界大戦中、日本軍がここに防衛体制を敷いていた際の名残です。

宗教的重要性

古来、徳之島の先住者たちは自然界の神々を信仰していました。この森には水神を祀る神聖な場所が数ヶ所あり、また、遺体を洞窟に安置して自然に分解させる慣習「風葬墓 (wind tombs)」に関連する神聖な場所もいくつかあります。